

金沢大学医学部保健学科 つるま同窓会

つどい

(仮称)

2004.12

創刊号

C O N T E N T S

- 02…つるま同窓会会誌創刊に寄せて
- 03…つるま同窓会会誌創刊にあたって
- 04…つるま同窓会の近況
- 04…**母校の近況**
- 06…同窓会会則
- 07…同窓会役員
- 08…同窓会連絡代表者



つるま同窓会会誌創刊に寄せて

せき や あき こ
關 谷 暁 子

(第1期生 平成12年3月卒業 検査技術科学専攻)



同窓の皆さま、お元気でご活躍のことと、お慶び申し上げます。

私は、金沢大学医学部保健学科つるま同窓会第3回総会(平成16年11月26日開催)において、初代会長の濱井則子さんの後を受け、第2代会長を拝命いたしました關谷でございます。評議員・連絡代表者の方々を始め、同窓の皆さまのご協力を仰ぎながら、つるま同窓会の発展のため、微力ながら務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、私たちの母校、金沢大学医学部保健学科は、来年秋に創立10周年の節目を向かえようとしています。1,000名を超える卒業生の皆さまが医療従事者として、保健学領域の研究者として全国でご活躍され、年を追うごとに着実な拡がりを実感できますことは、非常に喜ばしいことと存じます。

しかしながら、同じ学び舎から巣立った私どもの集いの場である「つるま同窓会」の活動にこれまでに見るべき実績がなかったという事実は、草創期の組織活動の未熟さが招いたこととは言え、残念なことでありました。

この度、関係方面のご支援をいただき、暫定的ではございますが、5年ぶりに同窓会役員を一新し、本格的な事業活動を展開する組織整備に取りかかることとし、手はじめとして「つるま同窓会名簿」(改訂版)と「つるま同窓会会誌」を親しくお届けすることができました。

同様に、同窓生の集いの場をweb上に設けたり、最新版の名簿をwebから参照するといった構想も練られ、つるま同窓会の将来を見据え、皆さまお一人お一人が参加したくなる魅力ある組織づくりをめざし、会則改正・財務状況の点検、母校との協力体制のあり方など課題の具体的な検討に順次、着手しつつあります。

つるま同窓会は、何分にも歴史の浅い組織です。しかし、逆に、それだけに柔軟で斬新な体制作りが可能であろうかと、存じます。インターネットを通して、全国的に同窓の輪を構築することは、後輩の皆さまにとっても、きっと有益なものとなり得ることでしょう。同時に、それは私たち自身にとっても、恒久的に大きな財産となるはずです。今回、新たに同窓会長に選出され、種々の事業活動に取り組んでいく上で、私自身がその意義の大きさを実感した次第でございます。

同窓の皆さまには、どうか、母校とのつながりを大切にさせていただきたいと思います。皆さま一人ひとりが同窓会に積極的に興味と関わりを持たれ交流し、ともに歩み、成長して行ける組織である様にと…そして、新たに役員に選ばれた私どもがその礎ともなれるものならば、幸いなことでございます。

以上、つるま同窓会への変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げますと共に、併せて、皆さまのご発展とご健勝を心よりお祈り申し上げまして、会長就任並びに会誌発刊に寄せるご挨拶といたします。

つるま同窓会会誌創刊にあたって

高田重男

(金沢大学医学部保健学科長)



同窓会員の皆さま 御健勝で御活躍のこととお喜び申し上げます。

日頃、学生の教育、就職等でお世話になりこの場をお借りし御礼申し上げます。

平成7年10月に金沢大学医学部保健学科が設置されて以来、来年(平成17年)で10年目を迎えます。この間、平成12年4月に金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻修士課程、平成14年4月に金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程・後期課程が開設されました。さらに、平成17年度には大学院医学系研究科博士課程保健学専攻の講座化(部局化)が行われることが決定しております。大学院の部局化とは、教員の所属が大学院となり、学部教育に責任を持った研究志向の部局になることです。全国では4番目の保健学専攻の部局化で、少なくとも制度的には日本海側で保健学の高等教育、研究をリードする保健学科になりました。

今後は、名実ともに日本をリードする保健学科(保健学専攻)となるよう、高度専門医療人や保健学の教育・研究者の育成に教職員一同全力で取り組む決意しております。

また、金沢大学は国立大学の法人化により国立大学法人金沢大学となりました。大学自体の運営面での自由度が増した反面、特色ある大学造りを行い競争的環境で大学を発展させる必要があります。

金沢大学では平成20年に3学域に再編する構想が進んでいます。すなわち、従来の学部がなくなり人間社会科学域、自然科学域、医薬保健学域の3つに再編されます。保健学科は、医薬保健学域に医学科、薬学科とともに入ります。現在、この3学域構想の作業中であり、機会があればまた御報告いたしたいと存じます。

このように、保健学科をとりまく環境は大きく変化しています。今後の保健学科の発展は同窓会の皆さまの御支援があつてこそ、初めて可能なことと存じます。

今後とも、ご協力よろしくお願ひいたします。

つるま同窓会の近況

① 第3回総会・評議会を3年ぶりに開催、組織整備推進・事業活動の活性化を確認

つるま同窓会は第3回評議会を11月26日(金)午後7時から評議員19名の参加(委任状提出者含む)を得て、医学部保健学科で開催しました。

冒頭、濱井会長(代理 關谷副会長)・高田保健学科長から順次、ごあいさつがあった後、事務局から過年度の事業報告と決算報告・入会状況報告と監査報告がありました。

ついで、平成16年度事業計画・予算の提案がありました。この中で同窓会名簿の改訂・発行、会誌発行、ホームページ開設、会員拡大など、会員間の交流と保健学科との連携促進のための組織と財政基盤の整備を進める取組みが満場一致で承認されました。

続いて、開催された平成16年度総会では第3回評議会報告と役員改選が提案され、評議会から推薦された關谷暁子氏(1期—平成12年3月卒業・検査科学技術学専攻)に第二代会長を、又、9名の同窓生諸氏に副会長と評議員の役務を委嘱することが承認されました。

(P7・参照)

② 同窓会の会員名簿の改訂・発行、会誌の創刊、ホームページ開設準備、追い込み続く

つるま同窓会はこのほど連絡代表者諸氏の協力を得て、3年ぶりに同窓会名簿を改訂し、発行にこぎ着けることができました。

1期生から5期生までの同窓生1,076名と教員・元教員の方々のお名前・住所等が掲載されています。同窓会では保健学科や同窓生同士の交流に役立てて欲しいと希望しています。

同窓会会誌も本号を創刊号とし、発行しました。今後は1年に2回程度の発行を予定しておりますが、紙面の充実に務めたいので、会員諸氏と保健学科には近況報告・記事の投稿など積極的なご協力をお願いします。

又、本会誌の誌名も皆さまから募ります。

良いネーミングがございましたら、ご遠慮なくアイデアを事務局までお寄せください。

ホームページも会員有志にお願いして近々に開設できるよう準備中です。金沢大学のホームページからログイン、医学部保健学科経由でアクセスできる様にする予定です。

供用開始後は、活発な交流が画面いっぱいにあふれる様、ご協力をお願いします。

母校の近況

① 平成16年度から金沢大学は法人となりました

国立大学の法人化により、金沢大学は国立大学法人金沢大学となりました。法人化の目的は、これまでの国立大学の形態では限界があり、个性的かつ開かれた大学をめざしたものです。

国から支給される運営資金と自主財源をもとに大学が運営され、自主自立的運営による特色ある大学造りを行うことになります。また、国民や地域に開かれた大学をめざします。

一方、少子化に向かった大学は、創意工夫をこらし魅力ある大学を造らなければ競争に負けることとなります。また、独立行政法人に課せられた経営・運営の効率化も求められています。今後、法人化のメリットを活かすかどうか金沢大学の将来・命運がかかっていると言っても過言ではありません。なお、教職員は非公務員となり、就業規則等が新たに作成されました。

② 平成17年度より、医学部保健学科は大学院の講座化(部局化)を行います

医学系研究科保健学専攻博士後期課程は、本年度に初めて修了生を送り出します。

この学年進行に引き続き、大学院の部局化を行うことが許可されました。

大学院の講座化(部局化)とは、これまで学部所属であった教員が、大学院博士後期課程に所属することになることです。

すなわち、研究を大きな目標とした保健学の学問領域を形成し、同時に学部教育にも責任を持つことになります。日本の保健学領域では4番目の部局化で、保健学の研究者・教育者や高度専門医療人の育成機関としてさらに充実させる必要があるためです。

③ 医学系研究科保健学専攻博士後期課程で初の学位取得をめざし、学位請求論文が提出される

このほど、医学系研究科保健学専攻博士後期課程(平成14年4月設置)の平成17年3月修了予定者から医学系研究科長あてに学位請求論文が提出されました。

これを受け、同後期課程委員会は論文審査・最終試験・同課程委員会審議など所要の審査手順を経た後、合格者に対し博士(保健学)の学位授与されることとなり、研鑽の結果が待たれます。

④ 平成17年度入学者選抜試験各種、ピーク間近！

17年度入学者選抜試験は、学部編入学試験・推薦入学試験、大学院博士前期課程・博士後期課程試験と続き、センター試験は1月15日(土)～1月16日(日)の両日に実施され、個別試験(前期・後期日程)実施に続きます。保健学科は創立10周年、医学系研究科保健学専攻博士後期課程は4月からの部局化(大学院講座化)と、大きな転換期を迎える時期の入学者が決定することになります。

なお、医学系研究科保健学専攻博士前期課程では平成17年度の入學予定人員に若干人の欠員が生じたことから、次のとおり第3次学生募集を行うこととしました。受験ご希望の方は募集要項・願書・過年度の問題集等を送付します。詳細については金沢大学医学部保健学科学務第二係(076-265-2514)までお問い合わせください。

〈出願から入学までの日程〉

- ・専攻名：保健学専攻
- ・領域：看護科学領域・医療科学領域並びにリハビリテーション科学領域
- ・募集人員：若干人(特別選抜(社会人・外国人留学生)を含む)
- ・出願資格認定申請期間：平成17年2月17日(木)～2月23日(水)
- ・出願期間：平成17年2月25日(金)～3月3日(木)
- ・試験期日：平成17年3月14日(月)

⑤ 先輩に続け、4年生は就職活動、卒業研究発表、そして、国家試験の全員合格をめざしスパート

今冬、金沢では遅まきながらも12月22日(水)に初雪を見ましたが、つるまキャンパスでは4年生が寒さもなんのその、就職活動、卒業研究、国家試験の受験勉強に土・日返上でヒートアップしています。

就職状況は現在、就職希望者比で内定率72%(平成16年12月1日現在の届出集計分)ですが、各医療機関などから次々と内定通知が寄せられており、全員就職めざし、学生・関係教職員一丸となって最後の追い込みに懸命です。

卒業研究発表は、この夏に検査技術科学専攻が行われたのを皮切りにピークを迎えます。

どの専攻の学生も本番に備えて何度も発表の練習を繰り返しており、学務係にある8台のデータ・プロジェクターは授業の間隙をぬって引っ張りだこ、研究発表の脇役としてフル回転です。

2月下旬から順次開始される国家試験受験にも4年生は準備に怠りありません。

国家試験出願説明会は11月下旬から専攻ごとに順次開催され、願書は一括して厚生労働省東海北陸厚生局・近畿厚生局に提出済み、先生も模擬試験を実施してバック・アップ、後輩の皆さんは頑張っていますよ！

金沢大学医学部保健学科つるま同窓会会則

第1章 総 則

第1条 本会は、金沢大学医学部保健学科「つるま」同窓会と称する。

第2条 本会の事務所は、金沢大学医学部保健学科内に置く。

第3条 本会は、会員相互の親睦を図り、その融和向上を通じて金沢大学医学部保健学科の発展に寄与することを目的とする。

第4条 本会は、前条の目的を達成するため次の事項を行う。

1. 会員の親睦、交流等に関する事項
2. 母校の発展に関する事項
3. 会員名簿及び会報の発行に関する事項
4. その他本会の目的達成のために必要な事項

第2章 組 織

第5条 本会の会員は、通常会員、準会員、及び特別会員とする。

1. 通常会員 ・金沢大学医学部保健学科卒業生
2. 準会員 ・金沢大学医学部保健学科に在籍している学生
3. 特別会員 ・上記の教員及び元教員

第3章 役員会・会議

第6条 本会に次の役員を置く。

1. 会 長 1名
2. 副会長 1名
3. 評議員 8名

第7条 役員を選任は、次のとおりとする。

1. 会長 通常会員の中から評議会が推薦し、総会で委任する。
2. 副会長 通常会員の中から評議会が推薦し、会長が委任する。
3. 評議員 通常会員の中から評議会が推薦し、会長が委嘱する。

第8条 役員の仕事

1. 会長は、本会を代表し、会務を統轄する。
2. 副会長は、会長を補佐し、会長事故ある時はその職務を代行する。
3. 評議員は、第4条に掲げる重要事項を審議する。

第9条 本会では、次の会議を開催する。

1. 総会は、評議会が適当と認める時に開催する。
2. 評議会は、会長、副会長、評議員で構成し、本会の運営及び事業等の計画、並びに遂行にあたる。

第10条 会長及び他の役員の仕事は1年とする。但し再選を妨げない。

第11条 役員総数の過半数以上の出席で成立し、過半数以上の賛成で議決する。

第4章 会 計

第12条 本会の経費は、会員の会費その他の収入をもってこれに充てる。

第13条 会員は、会費を納入しなければならない。

第14条 本会の会費は次のとおりとする。

通常会員 10,000円(卒業時に納入する)

第15条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月31日までとする。

第16条 本会の会計については、毎年1回評議会において会計報告をしなければならない。

附 則 本会則は平成12年4月1日より施行する。

金沢大学医学部保健学科つるま同窓会役員

| 役員 | 期別 | 氏名 | 専攻・勤務機関・在学機関 |
|-----|----|------------------------|--|
| 会長 | 1期 | せき 谷 あり 子 關 (上) 田 暁 | 検査技術科学専攻 金沢大学医学部附属病院 |
| 副会長 | 1期 | た なか か おり 田 中 香 織 | 看護学専攻 金沢大学医学部附属病院 |
| 評議員 | 1期 | すぎ もと まさ き 杉 本 正 樹 | 放射線技術科学専攻 宮崎市保健所 |
| 評議員 | 1期 | つばき あつ ひろ 椿 淳 裕 | 理学療法学専攻 金沢大学医学部附属病院 |
| 評議員 | 2期 | はや かわ ち え 早 川 千 絵 | 看護学専攻 金沢大学大学院医学系研究科博士後期課程 |
| 評議員 | 2期 | き ず ひろ と 木 津 寛 人 | 放射線技術科学専攻 金沢大学医学部附属病院 金沢大学大学院医学系研究科博士前期課程 |
| 評議員 | 2期 | おもて み か 表 美 香 | 検査技術科学専攻 金沢大学医学部附属病院 金沢大学大学院医学系研究科博士前期課程 |
| 評議員 | 3期 | はや かわ ゆかり 早 川 紫 | 作業療法学専攻 公立能登総合病院 |
| 評議員 | 4期 | か とう あき なり 加 藤 昭 尚 | 看護学専攻 金沢大学医学部附属病院 |
| 評議員 | 5期 | なが い せい こ 長 井 成 子 | 作業療法専攻 金沢大学大学院医学系研究科博士前期課程 |

つるま同窓会連絡代表者(期別)

| 期別 | 氏名 | 専攻名 | 勤務先(在学先等) |
|----|-----------|---------|----------------------------|
| 1 | 濱井 則子 | 看護学 | |
| 1 | 田中 香織 | 看護学 | 医学部附属病院 |
| 1 | 杉本 正樹 | 放射線技術科学 | 宮崎市職員 |
| 1 | 中崎 真理 | 放射線技術科学 | 富山県厚生連高岡病院 |
| 1 | 關谷(上田) 咲子 | 検査技術科学 | 医学部附属病院検査部 |
| 1 | 野口 弥生 | 検査技術科学 | 春日井市民病院 |
| 1 | 椿 淳裕 | 理学療法学 | 医学部附属病院 |
| 1 | 前田 薫 | 理学療法学 | 医学系研究科博士課程 3年 |
| 1 | 田村 芽衣子 | 作業療法学 | 金沢社会保険病院 |
| 1 | 手塚 香 | 作業療法学 | 映寿会病院 |
| 2 | 山本(鈴木) 忍 | 看護学 | 医学部附属病院 |
| 2 | 早川 千絵 | 看護学 | 医学系研究科博士後期課程 2年 |
| 2 | 木津 寛人 | 放射線技術科学 | 医学部附属病院放射線部医学系研究科博士前期課程 2年 |
| 2 | 松原 孝祐 | 放射線技術科学 | 医学部附属病院検査部医学系研究科博士前期課程 2年 |
| 2 | 表 美香 | 検査技術科学 | 医学部附属病院検査部医学系研究科博士前期課程 1年 |
| 2 | 橋川 直也 | 検査技術科学 | 医学系研究科博士後期課程 2年 |
| 2 | 西川 理夫 | 検査技術科学 | |
| 2 | 林 久乃 | 理学療法学 | 石川整枝学園 |
| 2 | 水野(藏) 悦子 | 理学療法学 | |
| 2 | 野田 祐輔 | 作業療法学 | 石川県済生会金沢病院 |
| 2 | 芳賀 英子 | 作業療法学 | 金沢社会保険病院 |
| 3 | 朝倉(藤井) 恵美 | 看護学 | 医学部附属病院脳神経外科 |
| 3 | 保坂 華代 | 放射線技術科学 | 立川総合病院 |
| 3 | 堀川 智加 | 放射線技術科学 | 豊橋市民病院 |
| 3 | 前田 潤美 | 放射線技術科学 | 立川総合病院 |
| 3 | 新谷 慶幸 | 検査技術科学 | 石川県立病院 |
| 3 | 高多久美子 | 検査技術科学 | 永遠幸レディースクリニック |
| 3 | 吉村 育恵 | 理学療法学 | 石川県職員 |
| 3 | 米田 由美 | 理学療法学 | 医学部附属病院 |
| 3 | 稲口 葉子 | 作業療法学 | 石川県立中央病院 |
| 3 | 早川 紫 | 作業療法学 | 公立能登総合病院 |
| 4 | 加藤 昭尚 | 看護学 | 医学部附属病院 |
| 4 | 河村 奈津子 | 看護学 | 医学部附属病院 |
| 4 | 中出 清香 | 看護学 | 医学系研究科博士前期課程 2年 |
| 4 | 嶋田 泰大 | 放射線技術科学 | 福井県職員 |
| 4 | 田中 拓郎 | 放射線技術科学 | 鳥取大学医学部附属病院 |
| 4 | 楠 美穂 | 検査技術科学 | 佐川クリニック |
| 4 | 清水 亜矢子 | 検査技術科学 | 佐川クリニック |
| 4 | 中川 友子 | 理学療法学 | 浅ノ川総合病院 |
| 4 | 野崎 寛子 | 理学療法学 | 石川県済生会金沢病院 |
| 4 | 岩田 祐美 | 作業療法学 | 石川県済生会金沢病院 |
| 4 | 澤崎 詩織 | 作業療法学 | 医学部附属病院 |
| 5 | 岩坂 咲子 | 看護学 | 医学部附属病院 |
| 5 | 表 亜沙美 | 看護学 | 医学系研究科博士前期課程 1年 |
| 5 | 篠田 朋宏 | 看護学 | 金沢大学教育学部看護教諭特別別科 |
| 5 | 池本 多美代 | 放射線技術科学 | 金沢社会保険病院 |
| 5 | 奥村 悠祐 | 放射線技術科学 | 石川県済生会金沢病院 |
| 5 | 牧 野陽子 | 検査技術科学 | 総合青山病院愛知 |
| 5 | 木戸 薫 | 検査技術科学 | アルプ金沢 |
| 5 | 松波 香織 | 検査技術科学 | メディック岐阜 |
| 5 | 矢口 智恵 | 理学療法学 | 石川整枝学園 |
| 5 | 松井 伸公 | 理学療法学 | 金沢赤十字病院 |
| 5 | 松山 孝治 | 理学療法学 | 医学部附属病院 リハビリテーション部 |
| 5 | 柴田 奈央子 | 作業療法学 | 石川県済生会金沢病院 |
| 5 | 長井 成子 | 作業療法学 | 医学系研究科博士前期課程 1年 |



発行所 金沢大学医学部保健学科 つるま同窓会
〒920-0942 金沢市小立野5丁目11番地80号
金沢大学医学部保健学科学務第二係気付
TEL 076-265-2515 FAX 076-234-4515
e-mail tudoi@mhs.mp.kanazawa-u.ac.jp

編集兼発行人 金沢大学医学部保健学科 つるま同窓会編集委員会

印刷所 田中昭文堂印刷株式会社
〒920-0377 金沢市打木町東1448番地 TEL 076-269-7788

発行日 平成16年12月